

ちょうふ環境にゆ〜す

未来へつなぐ調布の環境

発行：調布市環境部環境政策課

連絡先：電話 042-481-7086・7（直通） FAX 042-481-7550

email kankyuu@city.chofu.lg.jp

※市ホームページでも、環境情報を提供しています（トップページ「まちづくり・環境」からご覧ください）。



2022年12月
第48号

刊行物登録番号
2022-133

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



第50回調布市環境フェアを開催しました

お知らせ

10月22日（土）に調布市役所前庭広場において、3年振りに調布市環境フェアを開催しました。

環境フェアは、各団体・事業者・行政等が環境に関する情報を発信し、来場される方々の環境問題への関心や

環境意識を深める目的から開催し、今年で節目の50回目を迎えました。今年度は合計27団体の出展にて、延べ約3,500人もの方にご来場いただきました。ご来場ありがとうございました。



イベント当日の様子



告知ポスター

相互連携協定の締結式の実施

開会式後に、調布市とユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社による「地球を守るための市民率先行動に繋げる連携協定書」の締結式を行いました。

今後、緑の保全・活用に関して世界的に事業展開をしているユニリーバ社の企業活動の経験を調布市のフィールドで活用する予定です。



締結式の様子

深大寺・佐須地域の公有化した農地で収穫した有機農作物を景品とし来場者に提供

調布市では、武蔵野の面影を残す里山風景を形成している深大寺・佐須地域の自然環境を活用し、農に触れ合える自然体験型の環境教育・学習を実施しています。

当日は、会場で実施したキーワードラリーの景品として、こうした取組を通じて収穫した有機農作物（里芋・さつまいも・かぼちゃ・玄米・ハヤトウリ）などを来場者に提供しました。

キーワードラリーにご参加いただき、ありがとうございました。



キーワードラリーの景品

飛田給駅前・調布駅前クリーン作戦

活動報告

10月13日(木)に第4回飛田給駅前クリーン作戦、14日(金)に第11回調布駅前クリーン作戦をそれぞれ開催しました。

駅周辺の清掃活動を通して地域の交流や活性化を図ることを目的に、市民の方々や、事業者の皆様と共に清掃活動を行うことで調布のまちに愛着をより持つていただくことを目指し実施しています。

当日は、自治会や商店会、事業者の方々や個人参加の方など、飛田給駅前には4団体33人、調布駅前には22団体190人と多

くの方にご参加いただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。



クリーン作戦の様子

調布市地域猫セミナー&第5回ボランティア講習会

活動報告

10月29日(土)に調布市地域猫セミナー&第5回ボランティア講習会を国領の市民プラザあくろすで開催しました。従来は会場参加のみでしたが、今回は新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでの同時配信も行いました。

第一部の地域猫セミナーでは講師として東京都台東区台東保健所生活衛生課愛護動物管理係長で獣医師でもある高松純子氏をお招きし、地域猫活動から見てきた多頭飼育崩壊について地域連携による活動のお話をいただきました。第二部のボランティア講習会では地域猫ボランティアによる意見交換会を実施し、活動においてトラブルになりやすいことについて意見を交わしました。

新型コロナウイルス感染症の影響でここ数年は動画配信のみの開催であったことから久々の会場開催となりましたが、参加者同士の交流も徐々に深めることもできました。

お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。



ボランティア講習会のチラシ

都立農業高校神代農場での散策イベントを開催

活動報告

都立農業高校の神代農場(調布市深大寺南町)には、国分寺産線の緑、湧水などの良好な自然環境が維持されています。

市と同校は自然環境の保全・保護などの事業を連携して行う目的から相互連携基本協定を締結しており、10月15日(土)に神代農場内において、散策イベントを開催しました。

始めに、都立農業高校教員の戸戸先生からの挨拶の後、東京大学大学院生の白川誠様から農場内のキノコ類につ

いての講義があり、その後、農場内の散策を行いました。

見学ポイントには都立農業高校の生徒の皆さんが待機し、イベントに参加された方に分かりやすく説明をしていただきました。

参加された方からは「随所で説明があり良かった」、「様々な生き物、植物に触れ合えて良かった」、「住まいの近くにこのような自然があるとは思わなかった」などの感想をいただきました。



散策の様子



養殖場の様子



いるかな カブトムシ

雑木林ボランティア講座

活動報告

雑木林ボランティア講座は、調布に今も残る里山の風景や雑木林を、市民と市が協働で保全していくことを目的とし、環境活動ボランティア人材を養成する講座です。

9月17日(土)に、「雑木林の生態系(植物編)」を開催しました。

始めに、講師の雑木林保全活動団体「入間・樹林の会」の根本淳様から、都市近郊に存在する雑木林の状況やどのような植物がどの程度の面積割合で生育しているかなどを記録する「植生調査票」の記録方法などを受講し、その後、入間樹林地に移動して実際に「植生調査票」を使用して、樹木の高さや被度の調査を行いました。

参加された方からは「座学は理論的な内容

で面白かった」、「入間樹林地内には多種多様な植物が存在し、その多様性に驚いた」などの感想をいただきました。



座学の様子



植生調査票を作成する様子

調布市環境モニター

活動報告

調布市環境モニターは、市民と市が協働で市内の自然環境を見守り、自然環境の保全に活用していこうというグループ活動です。

第3回クマムシってどんな生き物

9月24日(土)に駿河台大学経済経営学部の伊藤雅道教授を講師に迎え、クマムシの解説と、顕微鏡で観察を行いました。

クマムシは、コケの中などの湿った環境を好み、私たちのごく身近な環境にいる生き物です。クマムシは、周囲が乾燥すると徐々に体内の水分を放出し、体内での代謝を最小限に落とします。この状態は「乾眠」と呼ばれる仮死状態で、-270℃の超低温、57万レントゲンのX線(人の致死量の1,000倍の相当)、1,000気圧などに耐える驚異的な能力を発します。さらに、乾眠の状態でも100年くらい生きるとも言われています。

当日は、クマムシが居そうな場所からサンプルを採取

し、底に溜まった残渣物をスポイトで吸い取り、顕微鏡で観察しました。実際に観察できるかは運次第とのことで、先生と参加者は何度も残渣物を入れ替え、1体のクマムシを発見しました。参加者からは「透明なエビのようだ」や「こんなに動く生き物だとは思わなかった」「ずんぐり体型でかわいい」などの感想をいただきました。



顕微鏡で観察できたクマムシ

調布子どもエコクラブ

活動報告

調布子どもエコクラブは、河川や緑地などでの自然体験を通じて環境を学ぶ、子どもたちの環境クラブです。

藍染め体験

7月9日(土)に、柏野小学校北側の公有地で藍染め体験を行いました。藍の葉を刈り取って生の状態で染料にして染色する「生葉染め」という方法で行いました。葉をちぎって袋に入れ、水の中でこすって色を出します。輪ゴムとビー玉を使ってハンカチに模様を付け、水の中に入れてしばらく待つと、藍色に染めることができました。

参加された皆さんの個性があふれるハンカチができあがりました。



藍染めの体験の様子

稲刈り体験

9月17日(土)に、柏野小学校北側の公有地で稲刈り体験を行いました。うるち米の稲をのこぎり鎌で刈り取りました。最初はうまく刈れずにいた参加者も、講師の指導のもとでだんだんコツをつかみ、たくさんの量を収穫できました。刈り取った後は、稲を束ねて干し、乾かすための「はざかけ」も体験しました。

公有地では、無農薬で栽培しているため、カエルやバッタなど多くの生き物を見ることもできました。



稲刈り体験の様子

12月1日(木)から3月31日(金)まで 冬に省エネ・節電をお願いする期間

お知らせ

冬は、寒くなって暖房を使ったり、お風呂・お湯の温度を上げたり、日が短くなって照明を長く使ったりと、エネルギーの使用量が増加します。夏に続き、この冬の電力も、依然として厳しい見通しです。この冬の省エネルギー・節電・節ガスに、無理のない範囲でご協力をお願いします。

家庭でも「WARM BIZ (ウォームビズ)」に取り組もう

暖房中の室温 20℃を目途に、ライフスタイルを少し見直すことで、暖房に必要なエネルギー使用量を削減します。



～ WARM BIZ が推進する衣食住の具体的な取組～

省エネ対象	省エネポイント
エアコン	・20℃を目安に設定する。 ※温度を上げる前に、1枚重ね着する。ブランケットやひざ掛けなどひと工夫を。 ・月2回を目安に、フィルターを掃除する。
電気カーペット	断熱マットを敷く。
窓	厚手のカーテン（床に届く長さにする）を閉める。
冷蔵庫	設定を「弱」にする。
浴室	追いだきや自動保温をなるべくしないように、家族が続けて入る。

※東京都では、エネルギー性能が高いエアコン、冷蔵庫、給湯器、LED照明器具に買い替えた都民へポイントを付与します。詳細は、「東京ゼロエミポイント」で検索してください。

省エネの基本は断熱！寒さは窓からやっけてきます

暖房効率を高め、暖かい空気を部屋の中から逃がさない工夫をすることが大切です。

冬は、室内の暖かさの約50%は窓から流出してしまいます。窓から寒さが入ってこない工夫をしましょう。

今なら高断熱窓・ドアへの改修に、東京都から補助金も

東京都『災害にも強く健康にも資する断熱・太陽光住宅普及拡大事業』

対象：高断熱窓・ドアへの改修等

補助率：助成対象経費の1/3

期間：令和7年(2025年)

3月31日(月)まで

詳しくは
コチラ



断熱性能がアップするとどうなる？

断熱性能の高い住宅は、築20年以上の断熱性能が低い住宅と比較し、年間の暖冷房費が70%以上安価となるとのデータもあり、高い省エネ効果が見込めます。

また、美容や健康にも良いとされ、部屋ごとの寒暖差が減ることで、入浴時や起床時の血圧上昇を抑え、心筋梗塞や脳卒中などの発症を防ぐことができます。



下水道を使い始めて50周年 ～供用開始から今年で50年～

お知らせ

調布市の下水道事業は、昭和47年(1972年)に各家庭から下水道への接続を開始し、令和4年(2022年)に50周年を迎えました。

昭和30年(1955年)の市制施行当時、大便や尿の処理はバキューム等での吸い取りが一般的でした。しかし降雨時の排水不良による浸水が続出したり、蚊・ハエ・ドブネズミが発生したりするなどの状況の中で、下水道設置への要望が次第に高まり、度重なる整備計画の変更を経て、供用開始に至りました。

こうして現在は居住エリアではどこでも使用できるようになった下水道ですが、管の老朽化が新たな問題となっています。管の老朽化が進むと壊れて穴があき、道路が陥没するなどの事故につながってしまいます。このような問題に対処す

るため、市では壊れる前にメンテナンスを行う予防保全型の管理が行えるよう、計画的に管の状態を点検・調査し、対策工事を進めています。

これから暮らしと環境を守る下水道を維持できるよう、取組を進めてまいります。



し尿処理のバキュームカー
昭和34年撮影



下布田辺下水道工事
昭和38年撮影

湧水調査

お知らせ

調布市における生物多様性保全、自然環境保全等の環境施策を推進することを目的に、市内の配慮すべき環境資源の実地調査となる「湧水調査」を数年毎に実施しています。今回は平成30年度以来4年ぶりの調査となり、10月19日～21日に、市内54か所の地点で豊水期の調査を行いました。

調査の結果、湧水の確認地点数は、過年度の調査と比較して大きく増減しておらず、深大寺境内や都立農

業高校神代農場の周辺、府中用水、実篤公園など29か所で確認できました。来年2月には、湧水期の調査を予定しています。みんなで湧水を保全していきましょう。



実篤公園の湧水